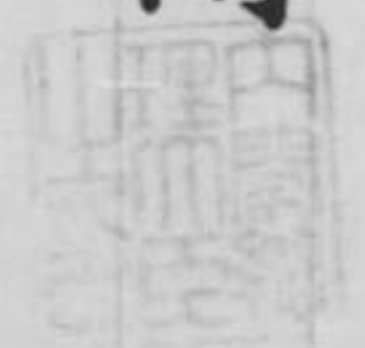




東京帝國大學教授大森房吉敘勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十二年十一月八日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛



内閣

東京

賞勳局市第二五號 内は文勳第四六号

大正十二年十一月五日

大正十二年十一月五日

授

内閣總理大臣 府

賞勳局總裁



叙正三位

御署名願

東京帝國大學教授從三位勳二等大森房吉儀ハ
明治二十三年理科大學ヲ卒業シ尋テ大學院ニ於テ地
震學及氣象學ヲ專攻シ同二十五年震災豫防調査會
委員ヲ仰付ラレ同二十六年理科大學講師ト爲リ地震學
講座ヲ擔任シ同二十七年地震學研究ノ爲伊國及獨國ニ留學
シ同三十年十一月歸朝翌十二月七日理科大學教授ニ任セラ
レ以テ今日ニ至ルマテ三十餘年間地震學ノ講座ヲ擔當シ終

賞勳局

始一貫熱心ニ學生ヲ教授シ地震ニ關係セル各般ノ研究ヲ
遂ケ著書報告及論文等ニ依リ世ヲ益スル所尠カラス
且自ラ大森式地動計ヲ發明シテ之ヲ實地ニ應用シ水道鐵
管ノ改良ヲ唱ヘ又數次海外ニ於ケル大地震調査ノ爲派遣セ
ラレ有益ナル參考資料ヲ齎シ其他震災豫防調査會委
員又ハ幹事等トシテ盡力シ又萬國地震學協會ノ創立ニ際
シ其中心ト爲リテ大ニ活躍盡瘁シ今回ノ大震災ニ付テハ重
患ノ身ヲ以テシテ一日モ專門ノ研究及之カ應用ヲ忘レス今後
ノ震災ニ對スル都市ノ防備殊ニ家屋及水道工事ニ關シ當
路ニ進言セル等其功績顯著ナル者ニ候處目下病氣危篤

ニ陷リタル趣ニ付此際特ニ勲一等ニ叙シ瑞寶章ヲ授
ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

賞
賜
局

東京帝國大學教授從三位勲二等大森房吉
敘勲一等授瑞寶章

右ハ明治二十三年理科大学ヲ卒業シ尋テ大學
院ニ於テ地震學及氣象學ヲ專攻シ同二十五
年震災豫防調査會委員ヲ仰付ラレ同二十
六年理科大學講師トナリ地震學講座ヲ擔
任シ同二十七年地震學研究ノ爲伊國及獨國ニ
留學シ歸朝後直ニ理科大學教授ニ任セラレ
以テ今日ニ至ルモテ三十有餘年間地震學ノ講

文 部 省

座ヲ擔當シ終始一貫俊秀敦厚ノ資ヲ以テ熱
心ニ學生ヲ教授シ其研究ノ指導ト學術ノ研
究ニ從事セリ故ニ一タヒ其教ヲ受ケタルモノハ皆
其德ニ感セサルハナシ而シテ同人ハ實ニ近世地震
學ヲ構成セル第一人者ニシテ斯學ノ泰斗一大
權威トシテ學術ノ發達並應用及調査方面
ニ涉リ貢獻セル所頗ル多ナリ今其著シキ
功績ヲ與手ケレハ

一 學術方面ニ關スルモノ

同人カ地震學ニ對スル貢獻ノ極メテ偉大ナル

ハ内外人ノ等シク認ムル所ニシテ其發表セル論文ノ數ニ於テモ別紙ノ如ク他ノ百般ノ學科ニ就キ多ク其比ヲ見ザル所ナリ特ニ豫震、地動ニ歸因スル長短柱、顛倒、移動或ハ破壊、大森式地動計、發明並應用、地震帶、鐵道橋梁、橋脚ト地動トノ關係、地震、初期微動、津浪、櫻島噴火、水道鐵管ノ震害、同一地方ヨリ發生セル地震記象ノ相似性、各種建築物ノ震動驗測、今古東西ニ於ケル各大地震、調査等ハ其最モ重キヲナスモノニシテ是等ノ研

文 部 省

究調査ハ實ニ近世地震學ヲ構成セル素因ニシテ若シ此研究事項ヲ除ケハ地震學ハ殆んど學問ノ體裁ヲ備フルコト能ハザルベク斯ノ如ク學術上ニ裨益セル功績ハ他ニ多ク其匹儔ヲ見ケルナリ

ニ、應用及調査方面ニ關スルモノ

同人ハ大森式地動計ノ發明ヲナシ之ヲ實地ニ應用シ又水道鐵管ノ改良ヲ唱エ現下、水道ニシテ一朝震害ヲ蒙ルニ於テハ其用ヲ爲サザルヲ論破シ屢々之ヲ當路ニ進言シ又三美及銀

行、大學工學部、同法文學部研究室、建築物ニ就キ震動驗測ヲ行ヒ其構造ノ適否ヲ判定シ殊ニ其所論ノ這回ノ震害ニ際シ肯綮ヲ得タルカ如キ又數次海外大地震ノ調査ニ派遣セラレ特ニ印度、如キ氣候風土、吾人ニ適セサル境地ニ於テ或ハ桑港伊國共ニ震後不逞ノ徒多ク往往之レカ迫害ニ遭際セルニ拘ラズ能ク困難ニ堪ヘ遺憾ナク調査研究ヲ遂ケ以テ是等震災ニ對シ純正地震學ノ見地ヨリ正確ニシテ權威アル批判ヲ與ヘ建築土木

文 部 省

工事ニ關スル極メテ有益ナル參考資料ヲ齎セル等盡瘁努力ノ功頗ル大ナリ

其他震災豫防調査會ニ於テハ之レカ創立ノ際ヨリ委員トナリ幹事トシテ將又會長事務取扱トシテ事業ノ經營ニ參與シ之レカ發展ニ盡力セリ又外國ニ於テ開催セラレタル諸學會ニ出席スルコト前後六回孰レノ場合ニ於テモ之レカ幹部トナリ幹旋盡力シ特ニ萬國地震學協會ノ創立ニ際シ其中心トナリ大ニ活躍盡瘁シタルハ最モ顯著ナルモノナリ

同人ハ病重キニ際シテモ尚ホ一日トシテ専門ノ研究及其應用ヲ忘レス或ハ震災ニ對スル調査ヲ爲サレヌ或ハ今後ノ震災ニ對スル都市防備殊ニ家屋及水道ノ工事ニ就キ後進ヲシテ總理大臣及復興院總裁ニ其說ヲ開陳セシムル等其學問ニ篤キコト實ニ推稱スヘシ然ルニ今マ病氣危篤ニ陥リ命旦夕ニ迫レリ依テ此際特ニ同人ノ功績ヲ録セラレ頭書ノ通リ叙勲ノ榮ヲ與ヘラレンコトヲ茲ニ謹テ奏ス

大正十二年十一月三日

文部

文部大臣岡野敬次郎



めくれず

裏面白紙

邦文論文

- 一 地震計調査：関スル報告
- 一 吾妻山噴火：関スル報告
- 一 餘震：関スル報告
- 一 人為地震ヲ生ズル方法：付報告
- 一 北海道地震：関スル報告
- 一 北海道地震記録調査：関スル報告
- 一 山形縣下地震調査：関スル報告
- 一 地震動傳達速度及「波文」：関スル報告
- 一 人為地震波速度測定報告
- 一 地震波傳達速度測定第一回報告

- 一、地震動強度ト被害ト關係調査報告
- 一、日本地震史料目錄ノ調査
- 一、六甲山鳴動ニ關スル意見
- 一、煉瓦柱破壊及柱狀物倅轉倒ニ關スル調査
- 一、明治三十七年六月二十日東京激震ノ調査
- 一、明治三十四年十月二十八日濃尾大地震ニ關スル調査
- 一、明治三十七年六月二十日東京激震ノ地震計記録圖調査
- 一、東京ニ於ケル福岡地震餘波ノ觀測調査
- 一、工科大學ニ階地震實驗ノ結果
- 一、地震ノ初期微動ニ關スル調査
- 一、遠地地震ニ關スル調査

裏面白紙

- 一、宮古地震観測ノ調査
- 一、支那地震表
- 一、餘震ニ関スル調査第二回報告
- 一、日本ニ於ケル地震ノ一年中及一日中ノ分布
- 一、地震観測方ニ関スル意見
- 一、地震動ノ性質ニ関スル調査第一回報告
- 一、物作ノ轉倒及移動ニ就キテ
- 一、月太陰ト地震トノ關係ニ就キテ第一回報告
- 一、明治三十二年八月福岡激震ニ関スル調査第二回報告
- 一、日本ノ大地震ニ就キテ
- 一、青森ニ於ケル地震回数

東京地学博物館

裏面白紙

- 一 明治三十四年十月十八日濃尾大地震調査第二回報告
- 一 京都地震観測調査第一回報告
- 一 日本ニ於ケル津浪ニ就キテ
- 一 鐵道橋梁ノ曲リ及振動ノ驗測
- 一 汽車振動ノ驗測第一回報告
- 一 地震動ニ関スル調査
- 一 汽車振動驗測第二回報告
- 一 鳥嶋破裂概報
- 一 八丈嶋及青嶋地災記録
- 一 鐵道橋梁曲リ及振動ニ関スル調査第二回報告
- 一 日本地震分布地理ト震原トノ關係

地理部地質學教室

裏面白紙

- 一、地震ノ緯度変化ノ關係ニ就キテ
- 一、鮎川及三崎ニ於ケル海面一年中ノ高低
- 一、地ノ脈動一年中ノ分布大段及水澤ニ於ケル觀測
- 一、近年日本ニ於ケル火山噴出表
- 一、地震驗測法一般
- 一、臺灣地震調査一斑
- 一、千八百十三年「クラトア」大破裂ニ伴ヘル津浪ニ就テ
- 一、火山破裂一年中ノ分布ニ就キテ
- 一、東京ニ起ルキ將來ノ地震ニ就キテ
- 一、桑港ト江戸ノ火災並ニ火災保險ニ就キテ
- 一、大地震ノ平均年數ニ就キテ

裏面白紙

- 一、地震續発の有無ニ就キテ
- 一、本邦近年強震ノ震源地
- 一、地震ノ時分布
- 一、京都及び附近ノ大地震
- 一、一觀測地ノ地動計記象ヨリ遠地震ノ震源地ニ於ケル震時ヲ推測スル方法
- 一、石巻及び蛇波山上ノ脈動
- 一、緩慢ナル震動ノ振幅
- 一、地震ノ鳴動ニ關スル調査(第一回報告)
- 一、長キ周期ヲ有スル氣壓ノ変化ニ就キテ
- 一、海水面ノ高サ一年中ノ变化(第二回報告)
- 一、人為的爆發ノ為ニ生じル地震動

- 一 露田軍艦「イア」號遭難記事
- 一 浅間山ノ噴火ニ就キテ
- 一 富士山ノ寶永破列表
- 一 東京筑波間ニ於ケル午砲音郷音速度
- 一 地震種類ニ就キテ
- 一 地震ノ原因ニ就キテ
- 一 大地震ノ前キ搖レニ就キテ
- 一 本邦大地震概説
- 一 浅間山ノ噴火ニ就キテ
- 一 燧岳(硫黄岳)ノ噴火ニ就キテ
- 一 神戸港外火藥船爆発ノ地郷音ニ就キテ

裏面白紙

- 一、浅間山噴孔ノ深サニ就キテ
- 一、御料汽車振動ノ験測
- 一、麻見嶋縣下ニ關スル震上家屋構造ニ注意
- 一、秋田縣下ニ關スル震上家屋構造ニ注意
- 一、三宅嶋噴火記事
- 一、本邦炭坑ノ瓦斯爆発ニ關スル調査(第同報告)
- 一、伊太利中部ノ大震ニ就キテ
- 一、伊豆大嶋三原山噴火概報
- 一、日本噴火志
- 一、近距離地震ノ初期微動繼續時間ニ就キテ
- 一、本邦大地震概表

一、震災概説及地震に關する注意

一、水道鉄管ノ震害ニ就キテ

一、東京將來ノ震災火ニ就キテ

一、破壊的地震ノ續發ニ就キテ

一、有馬温泉溫度變化ニ就キテ(地震ト温泉トノ關係ノ例)

一、石垣ニ就キテ(本邦古築造物ノ耐震的調査其二)

一、日光山ト地震(全上其二)

一、法隆寺金堂壁ノ震害ニ就キテ(全上其三)

一、海洋波浪及地ノ脈動ニ就キテ

一、東京灣ノ津波ニ就キテ

一、大正六年九月三十日十月一日暴風雨ト利根川筋及雨段浦並浦ノ水位

裏面白紙

めくれず

裏面白紙

一東京湾内ノ颱風津浪ト地ノ脈動トノ關係ニ就キテ

一大正五年十月十日前後ニ於ケル大正地ノ脈動

一雉子ト地震

一六正七年信州大町地方激震調査報告(第二回)

一構造物振動試験調査報告

一六正七年信州大町地方激震調査報告(第二回)

論文論文

一煉瓦家屋ニ於ケル地震試験ノ例

一明治三十四年十月五日濃尾大地震概報

一明治三十七年六月三日東京激震概報

- 明治三十七年六月二十日東京激震ノ強震計証象
明治三十七年三月十一日北海道大地震ノ餘震ニ関スル調査
柱狀物作轉倒及破壊ノ實驗
明治三十七年七月ヨリ三十八年十二月ニ至ル東京地動觀測ノ成績
明治三十四年十月二十日濃尾大地震ノ餘震ニ就キテ
日本ニ於ケル地震度数ニ年々及一日中ノ変化
鐵道橋梁ノ曲及振動ノ觀測
東京地震觀測第一回報告
全 第二回報告
全 第三回報告
一 水平動微動計

- 一、物作轉倒及移動調査
- 一、烟突振動ノ驗測
- 一、鐵道橋梁橋脚振動ノ驗測
- 一、煉瓦家屋壁振動ノ驗測
- 一、地動觀測ノ成績
- 一、地震器械ノ應用（汽車振動ノ驗測）
- 一、複式水平振子地動計
- 一、水平微動驗測器械
- 一、緯度ノ變化ト地震トノ關係
- 一、點川及び三崎ニ於ケル海水面ノ高年々中ノ變化
- 一、月（太陽）ノ日中ニ於ケル地震ノ分布

理學部地質學教室

裏面白紙

一、大阪於七地動觀測、就キヲ
 一、地震署械ノ應用、(汽車振動、観測ヲ二回報告)
 一、煉瓦家屋内ニ於ケル地震観測、(十三回報告)
 一、明治三十七年六月七日地震記象、就テ
 一、暴風雨ノ際ニ於ケル水平振子記象
 一、東京ニ於テ観測セル地震ノ水平振子観測、(震原相違ナキ中ニ地震動が相類
 似スル)
 一、千九百五年四月四日、印度地震、就テ
 一、千九百六年四月十八日、桑港地震、就テ
 一、千九百五年筑波山ニ於ケル、距離地震ノ観測
 一、千九百五年印度大地震報告、其一、(地震計記象)

裏面白紙

一、千九百五年印度大地震報告其二（地震計觀測）
 一、或任意地震ニ於テ觀測ニシテ初期微動ノ繼續時間ヨリテ地震ノ震央
 地ニ於テ地震時ヨリ計算スル方法
 一、地震傳播ノ速度ヲ計算スル方法ニ就テ
 一、千九百六年四月十八日米田桑港ノ地震ノ原因ニ就テ
 一、千九百六年四月十八日米田桑港地震ノ地震計記象ニ就テ
 一、千九百二年四月十九日「グアタマラ」地震ノ傳播速度ニ就テ
 一、千九百五年九月一日伊太利「カラッリヤ」地震ノ東京觀測ニ就テ
 一、千九百六年五月十七日基隆灣ノ激震
 一、基隆灣、基隆港、三地震ノ斷層比較
 一、千九百六年四月十四日基隆灣地震ノ傳播速度ニ就テ

裏面白紙

一、千九百二十年八月十七日「ワグバイン」及「アリネー」ニ群嶋地震ニ就テ
一、近時於ニ本邦地震ノ配布
一、中部日本ニ於ケル地震帯ニ就テ
一、信濃川流域ニ於ケル近時ノ強震ニ就テ
一、寛政四年（西暦一七九二年）温泉嶽ノ破裂ニ就テ
一、初期微動ヲ現ハサル地震動
一、鉄道橋脚ノ振動ニ就テ
一、千九百二十年八月二十日土耳其斯坦カニカル地震ノ観測
一、暴風ノ際ニ於ケル地面ノ傾斜
一、鉄道橋梁申及振動ノ観測（オニロ）
一、簡單微動計

八、部地震學教室

裏面白紙

一、長周期の有る水平振子
一、光緒七年六月十日東京附近地震記象ニ就テ
一、微震動ニ就テ
一、千九百七年十一月二十日東京地震
一、暴風ノ降水ニ於ケル水平振子ノ記録
一、東京及び京都ニ於ケル地震回数一年中ノ変化
一、近年ノ日本火山ノ噴火記録
一、日本沿岸ノ海水面ノ高下ノ一年中ノ変化ニ就テ(亦ニ同報告)
一、琵琶湖ニ於ケル一年中ノ水位ノ変化
一、千九百三年ヨリ千九百七年ニ至ル日本強震ノ記録
一、地震ノ前ニ搖レニ就テ

理學部地質學教室

裏面白紙

地震原因ニ就テ
信濃川流域及日本海沿岸ニ於テ破壊的地震ニ就テ
其臺灣ニ於テ地震分布
十九百一年一月十日(其臺灣)璦琿圖友拔仔庄地震ニ就テ
富士火山帶地震ニ就テ
善光寺地震(一四七一年)及天保地震(一八三〇年)ノ餘震
臺灣内社川鉄道橋梁橋脚ノ耐震力ニ就テ
地震為テ破壊サレル簡單ナル煉瓦構造ノ例
破壊的地震ノ最大振動部ノ経緯時間ニ就テ
氣壓ノ長周期ノ変化ニ就テ
煉瓦柱ノ振動變則

理學部地質學教室

裏面白紙

脈動觀測報告(第四回)

- 一九百八年十一月一日ノカタシタレハヤオ大地震ニ就テ
- 一九百九年及一九百八年其臺灣地震傳播速度ニ就テ
- 地震傳播速度ト道路ノ性質ト關係ニ就テ
- 柱狀物倒轉倒及破壞ノ實驗(才二回報告)
- 鐵道橋梁橋脚振動ノ觀測(地震計ノ應用)才二回報告
- 汽車振動觀測才三回報告(才一車振動)
- 有珠山噴火地震及土地昇降ノ現象
- 本邦各驛潮所ニ於ケル潮位近年ノ昇降
- 以填西國各驛潮所ニ於ケル潮位近年ノ昇降并ニカタシタレハヤオ大地震ノ原因

淺間山噴火及地震

裏面白紙

一、有珠山ノ噴火及隆起現象調査ヲ二回報告（明治三十四噴火前
後ニ於テ有珠山舊地方等水準點真高比較）
一、日本於此ノ脈動觀測ヲ二回報告
一、淡路山噴火及地震調査報告
一、櫻嶋噴火及地震調査報告
一、鉄筋混凝土煙突ノ振動觀測
一、本邦城壁ノ形狀ニ就キ
一、近距離地震ノ初期微動継続時間ト震原距離ト關係
一、有珠山噴火及隆起現象調査ヲ三回報告
一、原所六百六十呎無線電信塔振動ノ觀測
一、津草凌雲閣ノ振動觀測

裏面白紙

- 五重塔振動、観測
- 在七年信州大町、激震、調査、才、日報、告
- 東京地震、鳴鶴、上、東京方面地震、原因、ニ、就、キ、テ
- 南、東、方面地震、起、原、點、ノ、深、サ、ニ、就、キ、テ
- 強震、大、雨、后、續、発、有、無、ニ、就、キ、テ
- 亜細亞大陸横断地震波、才、初期微動、連續、時間、ニ、就、キ、テ
- 一九二〇年十二月十六日、甘肃、大、震、ノ、観、測
- 大正十年十二月八日、強震、ノ、調、査
- 大正十年四月十六日、強震、ノ、調、査
- 破壊的地震動、性質、ニ、就、キ、テ
- 一九二二年、基隆、激震、ニ、就、キ、テ

(以上)

裏面白紙

大森房吉

東京府平民

旧福井藩

明治元年九月十五日

越前国福井ニ生ル

年 號	月 日	學 業	官 職	賞 罰 等	當該官衛等
明治十六年七	月	東京大學豫備門本學入學			
全十七年九	月	次學年中褒賞給費生ヲ命セラル			東京大學豫備門
全二十年七	月	理科大學入學物理学ヲ専攻ス			
全二十一年七	月	次學年中特待生ヲ命セラル			理科大學
全二十二年七	月	次學年中特待學生ヲ命セラル			全
全二十三年七	月	理科大學物理学科卒業大學院入院			
		地震學及ヒ氣象學ヲ専攻ス			
		給費生ヲ命セラル			
履 歷 用 紙					
東京帝國大學					
全二十四年七	月	理科大學助手嘱託ヲ命セラルキ事			帝大理事
		二月金二十圓			
今年十月		地震學上取調之爲メ工科大學教			
		師ヲシテ京都外一府十縣下出張ニ付			
		隨行ヲ命セラル			
全二十五年四	月	助手嘱託ヲ解カレ更ニ理科大學			
		地震學取調ヲ嘱託セラルキ事			
		二月金二十圓			
今年七月		震災豫防調査會委員仰付ラル			内閣
今年八月		地震學上取調之爲メ岐阜・愛知・福井			
		三縣下へ出張ヲ命セラル			
全二十六年三	月	地震學上取調之爲メ石川・富山・兩			
		縣下へ出張ヲ命セラル			

今年四月	福島縣へ出張ヲ命セラル	文部省
今年五月	福島縣へ出張ヲ命セラル	今
今年七月	磁力實測ノ為メ東京府外七縣下へ出張ヲ命セラル	
今年九月	理科大學講師ヲ囑託セラレ地震學講座ニ屬スル事務擔任ヲ命セラル年当一千元金五百圓	
今	地震學上取調ノ為メ麻見島縣へ出張ヲ命セラル	
今年七月二十日	地震學研究ノ為メ滿二年間伊玉及獨玉留學ヲ命ス但最後ノ三箇月間及歸路ニ於テ地中海沿岸並南洋諸島ニ於ケル地震觀測及震災	
履歷用紙 東京帝國大學		
豫防計畫ノ狀況ヲ視察スヘシ		
今年三月	理科大學講師囑託ヲ解ク	帝玉大學
今年五月	フロレンス府及其附近震況取調ノ為出張ニ同年六月六日羅馬府ニ歸着ス	
今年七月	ヴェニス山破裂ノ狀況取調ノ為出張ニ同年三月六日羅馬府ニ歸着ス	
今年八月	獨玉柏林府ニ於テ開會ノ第十回萬玉測地學協會委員總會へ委員トシテ參列仰付ラル	
今年九月	右總會へ參列ノ際地軸變動ノ定則研究上ニ必要ナル器械並ニ天文	

觀測ノ方法ヲ調査スヘキ旨ヲ命ス	
全廿九年四月十八日	リバープール府ノ英國科學協會總會 へ出席ヲ聽許ス
全卅年七月	帰朝ノ際歐洲各地並ニ爪哇ニ呂宋 巡歴ヲ聽許ス
今年九月十日	帰朝ノ途次印度アワラムノ地震ニシ 視察スヘシ
今年十二月廿四日	帰朝
今年十二月七日	任東京帝國大學理科大學教授
今年全月日	敘高等官六等
全	全 本俸七級俸下賜
全	地震學講義擔任ヲ命ス
全	叙正七位
東京帝國大學	
履歷用紙	
全三十一年三月五日	東京帝國大學理科大學地震學研究會 品會計官吏ヲ命ス 但ニ圖書ヲ除ク
三月十五日	學術上取調ノ為メ神奈川県下ニ出張ヲ命ス 全
八月十五日	明治三十九年勅令第十三号學位令第三條 ニ依リ茲ニ理學博士ノ學位ヲ授ク
全三十一年九月三日	本俸六級俸下賜
全	叙高等官五等
全三十一年三月十五日	本務外工科大学地震學講義ニ從事 勉勵ニ付其賞金百圓下賜
全三十一年二月二日	京都帝國大學理工科大学地震學講師 京都帝國大學 ヲ囑託ス
月 日	年当金百五十圓交付
二月二十日	敘從六位

三月十五日 京都帝國大學理工科大学へ出張ヲ命ス
京都帝國大學
内閣

五月廿日 測地学委員會議事員ト仰付
測地学委員
中央气象台

十月十日 氣象觀測練習會員ニ地震學ノ講授ヲ命ス
解リ
中央气象台

十月廿日 臨時緯度觀測所へ出張ヲ命ス
測地学委員
文部省

同月廿日 職務勉勵ニ其賞トシテ金百圓下賜
文部省

全三十四年 一月三日 理学文書目錄委員會議事員ト仰付
内閣

二月廿日 本年四月独ホスタラスブルグ府ニ於テ美國
地震學協會創立委員會議同設ニ付
委員トシテ参列ト仰付

左日 独ホスタラスブルグへ向ケ出張(屆)

履歷用紙 東京帝國大學
三月廿九日 理学文書目錄編纂案ニ關スルキ事トシテ
金參拾圓贈与

九月二日 独ホスタラスブルグ府ニ於テ開設セルホ
地震學協會創立委員會議同設ニ付
出張中
如本日帰朝

十月五日 大政府々奈良靜岡兩縣下へ出張ヲ命ス
震災予防
調査會
文部省

十月廿日 宮城茨城兩縣下へ出張ヲ命ス
同上

十月廿日 職務勉勵ニ其賞トシテ金百圓下賜
文部省

十月廿日 陸海高等官四等
震災予防
調査會
文部省

全三十五年 三月三日 本俸五級俸下賜
下へ出張ヲ命ス
震災予防
調査會
文部省

全日 叙正六位
同上

五月六日	學術上取調、為、神奈川縣下横須賀へ出張ヲ命ス	東京帝大 大學 調査會
五月八日	岐阜縣下へ出張ヲ命ス	東京帝大 大學 調査會
八月廿日	小笠原附近へ出張ヲ命ス	同上
十月一日	福島宮城西縣下へ出張ヲ命ス	同上
九月三日	神奈川靜岡兩縣下へ出張ヲ命ス	同上
十月三日	兵庫縣下へ出張ヲ命ス	同上
十月十日	理事文書目錄委員事務長ノ年當トシテ金百圓ヲ支給ス	文部省
十月廿日	職務勉勵ニ自其賞トシテ金五拾圓ヲ賜フ	同上
今三十八年二月十七日	第五回内閣勸業博覽會審査會被仰付	内閣 博覽會 事務局
今日	第九部勤務ヲ命ス	同上
履歷用紙 東京帝國大學		
三月十日	學術上取調、為、神奈川縣下横須賀へ出張ヲ命ス	東京帝大 大學 調査會
四月十日	大政府及兵庫岡山三縣下へ出張ヲ命ス	同上
四月十日	大政府及兵庫岡山三縣下へ出張ヲ命ス	同上
五月廿日	本年七月独立委員會開設ニ付委員トシテ參列被仰付	同上
五月廿日	群馬縣下へ出張ヲ命ス	同上
六月一日	萬事地震學研究創立委員會へ參列被仰付 本日出發ス	同上
十月廿三日	本日帰朝	同上
今三十七年一月八日	陞敘高等官三等	内閣
三月三十日	敘從五位	同上

十一月一日 千葉・茨城兩縣下へ出張ヲ命ス

十二月十日 千葉・茨城兩縣下へ出張ヲ命ス

今年三月廿八日 理工科大学へ出張ヲ命ス

今年四月十日 御用有之印度ヲホーシ、シラア、アウラ地方へ被差遣

今年四月十日 本日出発

今年十月七日 本日帰朝

今年三月二十日 基隆へ出張ヲ命ス

今年九月三日 叙正五位
御用有之米國へ被差遣
明治四十四年六月十七日 傳令今改三任、大給俸相当地

今年六月三日 賜本俸五級俸

今年七月十日 御用有之和蘭へ被差遣

今年八月七日 和蘭へ向テ本日出発

履歴用紙

東京帝國大學

今年十月十日 和蘭へ向テ本日帰朝

今年四月十日 本學理工科大学へ出張ヲ命ス

今年十月八日 學術上取調、為メ神奈川縣へ出張ヲ命ス

今年三月 本學理工科大学へ出張ヲ命ス

三月某日 學術上取調、為メ長崎縣下へ出張ヲ命ス

今年一月十日 御用有之歐洲へ被差遣

一月廿日 學術上取調、為メ長崎縣下へ出張ヲ命シ

置差込之ヲ免ス

一月廿八日 御用有之歐洲へ被差遣、本日出発(屆)

六月一日 本日帰朝

七月某日 京都帝國大學理工科大学ニ出張ヲ命ス

調査會

東京帝國大學

調査會

文部省
内閣

京都帝國大學

内閣

東京帝國大學

京都帝國大學

五月五日 敍勳四等授瑞寶章

今四十年二月三日 學術上取調、為、神奈川縣下へ出張

ヲ命ス

今四十二年四月一日 俸給令改正

今年五月九日 眞野震災豫防調査會長外に出張

中代理ヲ命ス

震災予防
調査令

今年六月一日 瑞典國皇帝陛下ヨリ贈與シタル

北極星勳章三等勳章ヲ受領シテ佩

用スルヲ允許セラル

賞典局

今年七月廿六日 北海道へ出張ヲ命ス

東京帝國大學

今年十月四日 學術上取調、為、大政府及靜岡縣

下へ出張ヲ命ス

東京帝國大學

今年十月廿六日 理工科大學へ出張ヲ命ス、但し旅費ヲ給セス

東京帝國大學

履歴用紙

東京帝國大學

明治四十四年五月廿六日 即用有上英西へ出張

内閣

今年 五月廿六日 浅間山噴火調査、為、長野縣下へ

震災予防
調査令

出張ヲ命ス

今年六月二日 東京帝國大學理工科大學地震學教室

物品會計官更ヲ免ス

東京帝國大學

今年六月十八日 本日英西へ向テ出張

届

今年十月三日 本日英西ヨリ帰朝

令

明治四十五年四月三日 敍從四位

今年七月三日 賜本俸四級俸

文部省

大正元年八月十九日 噴火及地震事項調査、為、長野縣馬

二縣下へ出張ヲ命ス

令

大正二年六月廿五日 長野縣下へ出張ヲ命ス

令

今年十月廿六日 理工科大學へ出張ヲ命ス、但し旅費ヲ給セス、東京帝國大學

乙

今年青三番 敘勲三等授瑞寶章

大正三年一月十三日 噴火事項調査ノ為メ鹿児島宮崎

ニ縣下へ出張ヲ命ス

大正二年六月廿五日 長野縣下へ出張ヲ命ス

今年十月廿五日 理工科大學へ出張ヲ命ス 但旅費ヲ全セス

大正三年一月十三日 噴火事項調査ノ為メ鹿児島宮崎

ニ縣下へ出張ヲ命ス

今年二月十三日 九州帝國大學工科大学地震學ノ講義

ヲ囑託ス

今年四月四日 鹿児島縣下へ出張ヲ命ス

今年十月十五日 長野縣下へ出張ヲ命ス

大正四年三月十一日 陸軍高等官一等

今年七月廿四日 鹿児島縣下へ出張ヲ命ス

履歴用紙

東京帝國大學

今 九月七日 長野縣下へ出張ヲ命ス

大正四年九月十七日 鹿児島縣下へ出張ヲ命ス

大正五年六月一日 東京府下大島へ出張ヲ命ス

今年七月五日 長野縣下へ出張ヲ命ス

今年十月二日 鹿児島縣下へ出張ヲ命ス

今年十月五日 大府府々兵庫縣下へ出張ヲ命ス

今年十月十五日 大府縣下へ出張ヲ命ス

大正六年二月一日 神奈川県下へ出張ヲ命ス

今年五月廿五日 東京靜岡岐阜愛知長野二府四縣

下へ出張ヲ命ス

今年五月廿五日 叙正四位

今年六月廿五日 北海道へ出張ヲ命ス

今年七月三日 賜本俸三級俸

文部省

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

大正六年 九月八日	震災豫防調査會長事務取扱ヲ命ス	左
今年 十月四日	東京千葉、各府縣下へ出張ヲ命ス	震災予防調査員
今年 十月九日	海嘯ニ関シ調査ヲ囑託ス	内務省
大正七年 十月十五日	群馬縣下へ出張、序長野縣下へ出張命ス	震災予防調査員
大正八年 四月一日	官制改正 降給令改正	
今年 全月全日	賜本俸三級俸	文部省
今年 十月十五日	熊本縣下へ出張ヲ命ス	震災予防調査員
今年 十月十六日	廣島縣下へ出張ヲ命ス	左
大正九年 七月三日	布哇へ出張ヲ命ス	文部省
今年 七月十五日	布哇へ向テ出発	届
今年 十月七日	布哇ヨリ帰京	届
今年 十月廿五日	學術研究會議會員被仰付	内閣
今年 十月廿五日	長野縣下へ出張ヲ命ス	震災予防調査員
東京帝國大學		
履歴用紙		
今年 十月廿五日	群馬長野ノ二縣下へ出張ヲ命ス	左
今年 十月廿五日	叙勲二等授瑞寶章	
今年 十月廿五日	職務勉勵賞其賞トシテ金貳百円下賜	文部省
大正十年 十月廿五日	職務勉勵賞其賞トシテ金貳百円下賜	
大正十一年 二月三日	賜本俸二級俸	
今年 全月全日	測地學委員會委員長事務取扱平山	測地學委員會
今年 三月十五日	信外不出張代理ヲ命ス	左
今年 三月十五日	佛蘭西共和國政府ヨリ贈タル「オフシエー、ドラレスト」トクシヨンビュアリック	
今年 三月十五日	記章ヲ受領シタル佩用タルヲ允許セル	
今年 三月十五日	千葉縣茨城縣へ出張ヲ命ス	東京帝國大學
今年 四月廿七日	千葉千葉茨城三縣下へ出張ヲ命ス	
今年 五月三日	敘從三位	

乙

今年七月廿日	職務勉勵ニ付其賞トシテ金三百兩下賜	文部省
去年七月廿日	滿州へ出張シ命ス	全
今年五月廿日	出張	届
今年四月廿日	帰京	届
今年三月廿日	濠洲へ出張シ命ス	文部省
今年三月廿日	濠洲へ出張ノ序ヲ以テ大山站ニ周スル取調 ヲ囑託ス	東京帝國大學
今年七月廿日	濠洲ニ於ケル大山站地震ノ取調囑託 ニ付年當金千圓ヲ給ス	全
今年七月廿日	出張	届
今年九月一日	帰京	

履歴用紙

東京帝國大學

賞

文 部 省

内閣
文部省
回六号

東大二三號

大森房吉叙勲、件

右上奏書及進達候也

大正十二年十月三日

文部大臣岡野敬次郎

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿



裏面白紙

大正十二年十一月三日

又部大臣官弁秘書課長

又部書記官 関屋龍吉

賞勳局書はなす。

依頼

申日付又部大臣官弁秘書課長
東京市国大書院教授大森秀吉、同以
病氣を爲す、之を介する、急病に罹り、

雨相候し